

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大原小 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

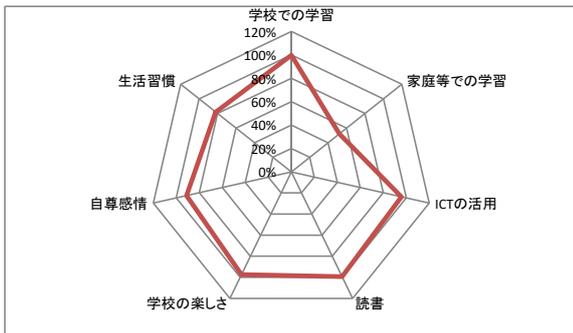
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	A「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均率が近く、全体的によく解けていた。C「読むこと」の領域と(1)言葉の特徴や使い方の領域で正答率を下回る問題が多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	A「話すこと・聞くこと」話し合いをもとにした問題	
	努力が必要な問題	C「読むこと」内容から読み取った自分の考えを書く問題・(1)6年生の漢字を書く問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	B「図形」領域全般・C ii「変化と関係」領域全般で正答率が下回った。A「数と計算」領域・D「データの活用」領域は正答率が平均を上回るものもあった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	A数と計算「かけ算・わり算の意味」・Dデータの活用「グラフの割合」	
	努力が必要な問題	B図形「多角形の辺の性質」「多角形の作図」/C ii 変化と関係「割合及び割合の分数化」	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱にする領域全般・「生命」を柱とする領域の一部で正答率が下回った。「エネルギー」「地球」を柱にする領域は正答率が全国平均に近い問題も多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	地球「冬の天気と気温」/生命「昆虫の体のつくり」	
	努力が必要な問題	粒子「水溶液の性質及び実験」/生命「観察記録から問題を見出し説明する」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・朝起きる時間・夜寝る時間が不規則になるという回答が、全国平均よりやや多かった。 ・スマートフォン・テレビゲーム等の接触時間が増えている傾向にある為、「携帯・スマホ電源10時OFF」等の啓発を今後より行う必要がある。 ・家庭での学習時間は、全国平均より大きく下回っている。今後も引き続き、児童への家庭学習の指導や働きかけを行っていく。 ・「人が困っているときは進んで助けていますか」や「人の役に立つ人間になりたいですか」の項目が全国と同じくらいで、自分のもっている力を他人に使いたいと考えられる児童が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語科において、漢字や語句を復習する時間を補足的に確保し、基礎基本の定着を図る。また、大事な言葉や文に留意しながら読む習慣を身に付けさせておく。
- ・算数科において、考えを順序よく書いたり、考えを説明したりする活動を位置づける。
- ・理科において、実験や観察活動の充実を図り、問題解決能力の育成を図る授業を継続して行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・宿題などの家庭学習の見直しを図り、児童が計画的に学習する習慣を身に付けられるよう支援する。
- ・学校からの通信などを通じて、児童の生活習慣の実態把握と家庭と連携した指導の充実を図る。